

## 「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026年度（選抜区分：学校推薦型選抜・全国推薦） 外国語学部 国際関係学科（科目名：小論文）
<p>問1</p> <p>答案の傾向</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 読解力にかなりの差が出たようで、資料2の日本語を用いているもの、全体像がつかめないうまま、文頭から訳しているもの、読み取りやすい文章を想像でつなげている解答などが多くあった。</li><li>・ 筆者の主張と、生成AIのメリット・デメリットを踏まえ、論理的な文章にまとめ上げている解答も一定程度あった。</li></ul> <p>解答例</p> <p>「少ない資源でより多くを生み出すこと」に核心的な思想をもつ資本主義において、生成AIは退屈で時間のかかる作業から人間を解放し、さらには過去のデータからパターンを素早く提示して人間よりも解決策の発見に優れているなど利点が多く、結果的に人間を幸福にするという。しかし筆者は、生成AIの使用により仕事の楽しさの喪失や批判的思考能力の低下を招くとし、人間のアイディアと創造性によって前進する資本主義は、思考能力が弱まれば衰退すると指摘したうえで、経営者は短期的な効率性に過度に固執しないこと、生成AIへの規制には透明性や安全性による保護策だけでなく、このような副作用にも対応する必要があるとしている。（296字）</p> <p>問2</p> <p>出題のねらいと答案の傾向</p> <p>AIといったテクノロジーの進化によって、ブルシット・ジョブが増えるのかそれとも減るのかを議論してもらいたかった。資料2からはテクノロジーの進化によってブルシット・ジョブが生じてきたことが示されており、その著者の意見に沿って、今後もブルシット・ジョブが増えるという論を展開することも可能であるし、AIが煩雑な仕事から我々を開放する道具になり得るという立場からは、資料2の著者の考えを否定することも可能である。そのように自身の考えを明確にするうえで、資料2で書かれていることをうまく利用しながら、肯定・否定の論を展開してほしかった。また、どちらの論を展開しても、資料1にあるように、AIに依存しすぎることで私たちの批判的思考能力が低下することや、日々の生活のなかで仕事をするうえでの喜びを失う可能性があることを示しながら、どうAIとの共存を図っていくのかといった自分の考えを述べてほしかった。しかしながら、受験生の答案では、どっちつかずの議論が展開されていたり、論理的に矛盾するような答案も散見された。</p>	

## 解答例

資料 2 によれば、ブルシット・ジョブとは実質的に無意味な仕事のことであり、テクノロジーの進化により生み出されてきた仕事である。たとえば、様々な管理部門はこれにあたる。では、AI によってブルシット・ジョブにどのような影響が生じるだろうか。私は AI によってますますブルシット・ジョブが増えるのではないかと考える。それは資料 2 にもあるように、これまでのテクノロジーの進化はたえず、新たに無意味な仕事を生み出してきたのであり、AI によっても同様のことが起こると考えるからだ。AI を導入することによって、単純労働に従事することからは解放されるかもしれないが、AI はいまだ完全とは言えず、AI によって行われた仕事にミスが無いかどうかのチェックを人間がしなければならない状況が生じる。それこそ管理というブルシット・ジョブが増えるのである。そのような業務は、クリエイティブなものでないばかりか、複雑で難しい作業でもないだろう。そうなると、人の思考能力も弱まり、物事全体に対する批判能力も低下してしまうと考えられる。資本主義は効率性を重視して、「少ない資源でより多く」を生み出すことを良しとしているが、AI やテクノロジーの進化は、私たちの仕事を奪うだけでなく、生み出される仕事もつまらない仕事、すなわちブルシット・ジョブであり、私たちの人生をますますつまらなく楽しくないものにしていくだろう。では、どうすればよいのか。資料 1 の著者が述べる通り、私たちは過度に AI に依存しすぎることなく、働くことから得られる喜びや楽しさを失わないように、AI との共存を目指していかなければならないだろう。また、資料 2 の著者が批判しているように、他者に寄与する仕事への対価が少ないという現状を問い直し、私たちの暮らしに欠かすことのできない仕事や、世界に色どりを与える音楽や文学の価値を今一度見つめなおす必要があるだろう。

(781 字)